

(研修概要) 自分を生かす学びを育む支援のあり方 ～学びの自立に向けて～ (2年次)

山口市立秋穂中学校

1 研究主題設定の理由

本校では、昨年「自分を生かす学びを育む支援のあり方～学びの自立に向けて～」を研修主題とし、授業改善部、評価部の2つの部に分かれて、研修を進めたり、全教員が参加する研究授業および研究協議や、教員相互の見合う授業(一人一授業)を行ったりした。各教科で、主に、「生徒の学ぶ意欲を引き出す発問の工夫を中心とした授業改善」「効果的で継続的な授業評価、3観点による観点別学習状況の評価」を意識して授業をし、教員全員で見合う授業を実践して互いの知識や経験を共有して、授業改善を協働で取り組んだ結果、生徒の授業に対する意欲はやや高まったように感じる。しかし、学びに向かう力、基礎的・基本的な力、自己表現力(説明力)、自分を分析して次に生かす力(メタ認知力)などが十分に身に付いておらず、「学びの自立」が課題である。

そこで、今年度も昨年度と同じ研修主題とし、学びの自立に向けて授業改善、効果的で継続的な授業評価や3観点による観点別学習状況の評価について研修を進めていく必要があると考えた。

2 本年度の重点取組事項

- (1) 生徒の学ぶ意欲を引き出す課題設定の工夫、および、生徒が自分で課題設定をし、計画的に学習を進める力の育成
- (2) 効果的で継続的な授業評価、3観点による観点別学習状況の評価の工夫、および、生徒が自分の学習状況を見取る力の育成

3 主な取組の具体

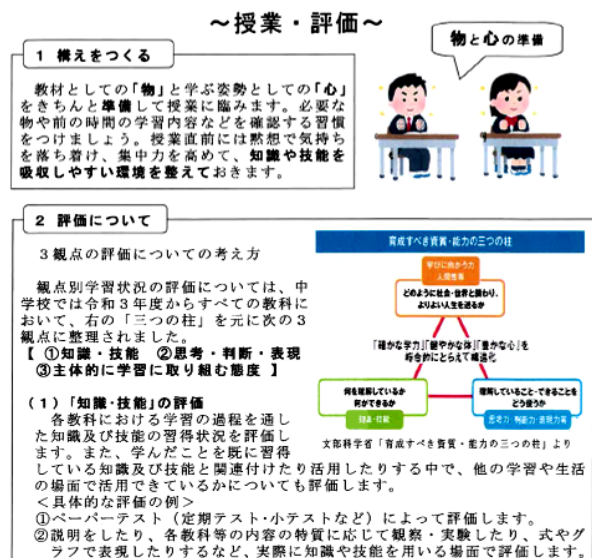
(1) 学習の仕方に示唆を与える「学習ガイダンス」の作成

右図のようにイラストや図も取り入れ、生徒向けにわかりやすく、読みたくなるような学習ガイダンスをめざした。学習の意義、授業・評価、家庭学習、テスト、の4つの項目に分けて作成し、昨年度末に完成した。今年度初めに生徒に配付し、活用している。

(2) 生徒の学ぶ意欲を引き出す課題設定

定の工夫、および、生徒が自分で課題設定をし、計画的に学習を進める力の育成を意識した授業

見合う授業(一人一授業)を行い、参観者は授業参観カードにより点や改善点等記



入し、授業者に渡した。授業者が今後よりよい授業をつくるために大変貴重な意見となった。

(3) 小中合同研修会（公開授業）

秋穂中校区内の3校で小中合同研修会を実施し、授業参観、研究協議（授業について、児童生徒の様子について、小中連携カリキュラムについて）を行った。児童生徒の授業への取組の様子を参観し、3校合同で研究協議を行うことで、中学校と小学校の互いの様子がわかり、9年間の義務教育のつながりを感じることができた。

① 秋穂中学校（6月15日）

1年2組 理科 単元名 実験を正しく安全に進めるために

② 大海小学校（10月12日）

5年 算数 単元名 面積

③ 秋穂小学校（2月15日）

2年 国語 単元名 読んで、感じたことを伝え合おう～スーホの白い馬～

(4) 学力向上推進リーダーの指導助言（隔週金曜日）、講話（2月8日）

学力向上推進リーダーに授業について指導助言していただき、その後の授業に生かすようにしている。各授業でいただいたアドバイスシートは、共有フォルダーに入れ、全教員が参考にできるようにした。また、2月には、『学びの自立に向けて～「めあて」と「振り返り」を大切にしたい授業づくり～』というテーマで、講話をしていただき、生徒が学びたくなるようなめあての設定や、めあての達成に向けて試行錯誤する場を設けるなど有効な学び方を明確にすることの大切さ改めて感じた。

(5) 各研究部での協議

学力向上プランに基づき、授業改善部は、授業への取組方や家庭学習について、評価部は、授業での評価場面について、生徒へアドバイスができるように協議した。基礎的な語句や単語をこつこつと覚えることや、挑戦する意欲の大切さなど話題となった。また、その日のめあてをどのように達成できればどのような評価になるかを具体的に示すなど、自己調整学習につなげられるような取組が必要だという課題も確認することができた。

4 研究の成果と今後の課題

今年度は、秋穂中校区内の小中合同研修会において、初めての試みとして、授業参観、研究協議を行った。小学校の様子がわかるだけでなく、日頃の授業で小中学校のつながりを意識することにもつながり、大変有意義な研修会であった。また、教員相互の見合う授業（一人一授業）では、各教科で、生徒の学ぶ意欲を引き出す発問の工夫、学びの自立のための手立てを意識して授業することができた。しかし、自分を生かす学びを育む支援をしたり、基礎的な学力を定着させたりするには、生徒の学習意欲につながる授業評価の在り方について研修を深めるとともに、学習課題の設定の工夫や、ICT導入など、さらなる工夫が必要であると考えた。

今後は、各教科・各領域において効果のあった取組を継続するとともに、新しい時代に必要となる資質・能力を育むためにより効果的な指導方法を探っていきたい。